

## 薬物療法学特論

《担当者名》教授/町田 拓自  
教授/泉 剛

## 【概要】

薬物療法を実践するには、病態についての基礎知識、用いる治療薬についての薬理学知識、そして治療薬の実際の使い方を統合した薬物療法学の知識が欠かせない。薬物療法学特論Iでは、これまでに学んだ薬理学総論、臨床医学概論ならびに神経系に関する病態・薬物療法を統合的に学修し、これらの領域における論理的思考力を高め、それに基づく応用力を身につける。

## 【学修目標】

薬物治療の目的を説明できる。  
薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。  
薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。  
薬物受容体の概念と薬理作用を数量的に解析する方法について説明できる。  
薬物受容体を分類し、その細胞内情報伝達系について例を挙げて説明できる。  
自律神経系の生理解剖学的特徴と、これに作用する薬物がどのような薬理作用を持ち、また、どのような疾患に適用されるかが説明できる。  
局所麻酔薬の作用機序と、それぞれの薬物がどのような薬理的性質を持ち、どのように応用されるかが説明できる。  
骨格筋における興奮収縮連関を、筋弛緩薬の作用機序と関連付けて説明できる。  
末梢における神経・筋の疾患（病態生理、検査値、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。  
中枢神経作用薬の薬理作用と臨床応用について説明できる。  
主要な疾患の症候について説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	薬の作用機序 教科書（パートナー）：p.22～60 資料を配布する。	薬物受容体を分類し、その情報伝達機構を説明できる。 薬物の生体内作用部位としての受容体、酵素、イオンチャネルの種類を列挙し、例を挙げて説明できる。 用量反応曲線や濃度反応曲線から、作動薬や拮抗薬の作用の数量的解析法を説明できる。 ED50、内活性、pA2、シルドプロットなど、薬理作用に関する基本用語について説明できる。 薬物の有害作用、耐性、依存性など、薬物依存と中毒の基本症状、発症機序と治療薬について、例を挙げて説明できる。 薬物依存性について、例を挙げて説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 E1-(1)- -1～9	町田 拓自
2	交感神経系に作用する薬物 教科書（パートナー）：p.73～104 資料を配布する。	アドレナリン作用薬を分類し、代表的な 作動薬および 作動薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 抗アドレナリン作用薬を分類し、代表的な 遮断薬および 遮断薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 E2-(1)- -1	町田 拓自
3	副交感神経系に作用する薬物 教科書（パートナー）：p.104～118 資料を配布する。	コリン作用薬を分類し、代表的な直接的コリン作用薬および間接的コリン作用薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 抗コリン作用薬を分類し、その代表的な薬物の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 神経節作用薬を分類し、代表的な節遮断薬の薬理作用と臨床応用を説明できる。	町田 拓自

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 E2-(1)- -2, 3	
4	知覚・運動神経系に作用する薬物 末梢神経・筋の疾患 教科書（パートナー）：p.137～144 、p.151～164 教科書（コンパス）：p.103～p.107 資料を配布する。	進行性筋ジストロフィーの病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ギラン・バレー症候群の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 重症筋無力症の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 局所麻酔薬の化学構造および適応方法、作用機序を説明できる。 代表的な局所麻酔薬を挙げ、その薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。 活動電位発生の仕組みを説明できる。 神経筋接合部の形態と機能を説明できる。 興奮収縮連関を説明できる。 筋弛緩薬を分類し、その薬理作用、作用機序、臨床応用、副作用を説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 E2-(1)- -1～4	町田 拓自
5	中枢神経治療薬(1) 教科書（パートナー）：p107～118、 128～141	全身麻酔薬、睡眠薬、抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬の薬理作用と臨床応用について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 E2-(1)- -1, 2, 4～6	泉 剛
6	中枢神経治療薬(2) 教科書（パートナー）：p120～128、 146～158	抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、脳血管障害治療薬、認知症治療薬、神経疾患治療薬の薬理作用と臨床応用について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 E2-(1)- -7～11, 14	泉 剛
7	症候学(1)	神経、感覚器、血液、免疫・アレルギー・感染症、運動器・皮膚の疾患の主要な症候について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	泉 剛
8	症候学(2)	消化器、呼吸器、循環器、腎・泌尿器、内分泌の疾患の主要な症候について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	泉 剛

## 【授業実施形態】

## 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

期末定期試験（筆記）100%により評価する。

## 【教科書】

「パートナー薬理学 改定第4版」石井邦雄、田中芳夫、坂本謙司 編（南江堂）

「コンパス薬物治療学 改訂第2版」原明義、小山進 編（南江堂）

## 【学修の準備】

・指定した教科書の関連する項目を事前に読んで予習しておくこと（40分）。

- ・予習時に不明な専門用語の意味等を事前に理解しておくこと(20分)。
- ・講義内容の学習課題へ到達できるよう毎回復習すること(50分)。

**【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

**【関連するモデル・コア・カリキュラムの学修目標】**

E1 薬の作用と体の変化

E1-(1)- 薬の作用

E2 薬理・病態・薬物治療

E2-(1) 神経系の疾患と薬

E1-(2) 身体の病的変化

**【実務経験】**

町田 拓自(薬剤師)、泉 剛(医師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での医師、薬剤師としての経験を活かし、医療場面で遭遇する可能性の高い臨床診断に関する知識を講義することで実践的な教育を行う。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している